

平和記念だより



◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念係
◆連絡先：高松市番町一丁目8番15号
TEL: 087-839-2293 FAX: 087-839-2291

平和を語るつどい・ 憲法記念平和映画祭

5月23日（土）、高松市役所13階大会議室にて、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第1部「平和を語るつどい」では、昭和20年7月4日、当時10歳（国民学校4年生）で高松空襲に被災した吉田孝子さんに戦争・空襲体験談をお話いただきました。大阪の生家（金庫の製造販売業）が奢侈品等製造販売禁止令で廃業となったこと、父親が4度の召集の結果、30歳でシベリアで抑留死したこと、疎開先の高松で空襲にあったことなど、ご家族の思い出とともに、人生の大切な分岐点の背景にある戦争について詳しく語っていただきました。その情景が目に浮かぶような吉田さんのお話に、参加者は全員じっと聞き入っていました。

第2部「憲法記念平和映画祭」では、戦後、中国残留孤児の帰国に尽力し、『中国残留孤児の父』と呼ばれた山本慈昭さんをモデルにした映画「望郷の鐘」を上映しました。



▲ 空襲体験談をお話し中の
吉田 孝子さん



◀ みなさん熱心にお話に聞き入っていました



平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭の感想

私は、琴平の高校から来ました。空襲のことについては、祖母から聞いた話しか知らないのので、平和の尊さについて、より理解を深めることができました。私は次の世代に語り継いでいきたいです。

高校生 男性

戦争は戦場で戦う兵士が命を奪われるだけでなく、庶民の生活を変えてしまう残酷なものだと思いました。おろかな戦争で平和な生活をうばわれ家族がバラバラになることは胸がいたみました。

「望郷の鐘」を見て、国策で中国へ渡った方々の複雑な思いに、胸を打たれました。こういった取組は、市がやることに大きな意味があると思うので、今後も続けていって欲しいです。

50～60歳代 女性

戦争体験を聞くのはつらくて悲しいけれども1回でも多く聞かせていただいて正しく認識することはとても大切なことだと思います。本日、中学生らしい男の子が聞きに来ていたのがうれしく思いました。

映画「望郷の鐘」は満蒙開拓団の実態がよく分かりました。

70歳以上 女性

普段あまり戦争のことにふれません。機会があれば、観たり聞いたりできるとよいと思います。

年々語りつぐ人が減ってしまうのが気がかりです。今のうちにできることをしておかなければという気持ちです。

40～50歳代 女性

私は当時東京に住んでおり、空襲を受けて家が焼けて父のふるさと高松に帰ってきました。小学校5年生だった私は、高松の空襲はとても恐ろしかったのを今も忘れません。

外地に行かれた方々の苦勞はとても想像にもおおよびません。とても良かったです。ありがとうございます。

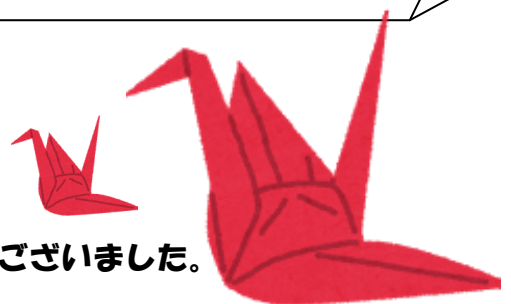
70歳以上 女性・11歳頃空襲を体験

高松空襲の時、私は6才でした。吉田様のお話で当時の様々なことを思い出しました。3才下の弟は当時のことは全然覚えていないようです。あの火に追われて逃げた恐怖を忘れないようにしたいです。

70歳以上・6歳頃高松空襲を体験



アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



高松空襲70周年事業『高松空襲体験の伝承』



今年は、1945（昭和20）年7月4日未明の米軍機による空襲から、70周年の節目の年にあたります。

高松市では、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えるとともに、平和を願う市民の心を永久に継承していくため、7月4日（土）高松空襲70周年事業『高松空襲体験の伝承』を生涯学習センター「まなびCAN」の多目的ホールにて開催しました。

第1部 「空襲体験談」

講師 田中 雍子 氏

第2部 「空襲体験の伝承」 空襲体験談の朗読

朗読者 亀阜小学校、栗林小学校の児童

紫雲中学校、桜町中学校の生徒

木内 晶子（女優、うどん県副知事）



被災した観音像

第1部の空襲体験談に先立ち、田中雍子さんから観音像を寄贈していただきました。この観音像は戦時中、東瓦町の田中産婦人科病院の病院兼住宅に所蔵されていましたが、高松空襲で被災した際、家屋及び家財は全て焼失したにもかかわらず焼け跡に立っていました。空襲の衝撃で、両手の手首から先はなくなりましたが、他はほぼ完全な形で残っています。観音様が身代わりになり、空襲の猛火から家族を守ってくれたと、現在までご一家で大切に保管なさっていたものです。



朗読中の児童たち



朗読に聞き入る聴衆



木内晶子さん

高松空襲写真展

7月1日（水）～7日（火）まで、高松市生涯学習センター「まなびCAN」エントランスホールにて、高松空襲写真展を開催しました。

「高松空襲被災写真」や「市民が描いた高松空襲絵画」の展示のほか、「焦土と化した市街地」コーナーでは現在の様子を撮影した写真を添付して、当時と比較できるようにし、幅広い年齢層の方に熱心に見ていただきました。



夏の行事予定



高松市戦争遺品展

- 【日 時】8月5日（水）～11日（火）
【場 所】高松市役所 1階 市民ホール
【内 容】高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料の展示

今年のテーマは「戦時中の暮らし」です。アルマイトの鍋や懐中時計のほか、一升瓶に入れた玄米を棒でついて精米するための米つき瓶を用意していますので、戦時中の精米方法を体験することもできます。

また、市民の皆さまから寄贈いただいた遺品の中から出征国旗や防空頭巾なども展示しています。ぜひお立ち寄りの上、ご覧ください。



同時開催 ユニセフ・パネル展

- 【日 時】8月5日（水）～18日（火）
【場 所】高松市役所 1階 市民ホール
【内 容】『アグネス・チャンさんが見た、一筋の光 ～ 南スーダン』

2015年4月、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が、内戦が続く南スーダンを訪問しました。200万もの人が住む家を追われ、重度の栄養不良状態にある子どもは22万9000人に達する南スーダンで、ユニセフが続けている取組をご紹介します。



高松市平和を願う市民団体協議会主催事業 高松戦災・原爆写真展

- 【日 時】8月12日（水）～18日（火）
【場 所】高松市役所 1階 市民ホール
【内 容】原爆の惨状を伝えるパネル等の展示

編集メモ



今年は戦後70周年の節目の年にあたり、新聞やテレビなどでも関連するニュースを目にすることが多いかと思います。高松市では8月には戦争遺品展を開催いたします。皆さまから寄贈いただいた貴重な資料を展示しておりますので、ご家族・お友だちをお誘いあわせの上、ぜひご来庁ください。



▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>